

令和7年度内子町環境基本計画にかかる部署別独自目標

NO	部署名		目 標
1	総務課	自然	自然環境配慮のため、空き封筒の再利用を促進する。
		暮らし	区長便の梱包には必ずコピー用紙包装紙など使用済み用紙を利用する。
		環境教育	すべての内子町地区集会所の指定管理者に対して、環境に配慮した取り組みに関する啓発を行う。
2	企画情報課	自然	庁舎内のLANケーブル無線化により、会議等に係る紙資料の削減に努める。
		暮らし	区長便の梱包には必ずコピー用紙包装紙など使用済み用紙を利用する。
		環境教育	移住希望者に対して、内子町の環境や景観に関する取り組みを紹介する。
3	会計課	自然	トイレ清掃当番時は、必ずえひめA1を使用する。
		暮らし	年間を通じて、再利用用紙の箱を置き、裏面利用による印刷用紙の削減に努める。
		環境教育	町が実施する環境学習会や地域の環境活動等に積極的に参加し、環境意識の向上に努める。
4	住民課	自然	窓口用封筒について、使用済封筒にリサイクル封筒である旨を記載し、再利用率100%を目指す。
		暮らし	課職員へ買い物に行く際のマイバッグ持参を周知し、持参率90%以上を目指す。裏紙の再利用や裏面印刷、両面印刷を徹底し、用紙の使用料削減に努める。
		環境教育	職員研修、地域の環境活動への参加により環境意識の向上を図る。転入者へ環境基本計画の取組やごみの分別について説明し周知する。
5	うちこ福祉館	自然	玄関横設置のえひめ「A-1」利用促進のため、週1回程度トイレ掃除の際などに積極的に利用する。
		暮らし	機能回復訓練室南側の窓枠一面において、緑のカーテンを実施する。健康講座、わいわい喫茶等の調理時に出た廃油は、すべてNPOサンラブに回収を依頼、リサイクルに努める。
		環境教育	貸館利用者に環境配慮チェックシート記入を促し100%記入率を目指すとともに、環境配慮の実践を指導・徹底する。城廻自治会のコミュニティビジネスに協力し、年2回館周辺のプランターに植栽を実施。
6	参川福祉館	自然	調理室やトイレ清掃の際に月2回、えひめA1-1を使用する。また館内外2箇所の掲示板にパンフレットを掲示するとともに、えひめA1-1を玄関に常備し、来館者や周辺住民にも利用を呼び掛ける。
		暮らし	調理室の使用で出た生ごみは、すべてプランターで堆肥化しごみの減量化に努める。室温を下げて電気使用量の低減を図るため、事務室の窓全体に緑のカーテンを2m設置する。また来館者や周辺地域住民にも取り組みを呼び掛ける。
		環境教育	館掲示板に環境に関する資料を年2回以上掲示し、利用者や周辺住民に啓発する。館利用団体への説明会、健康教室、サロン、子ども会活動の際に各1回、町や参川福祉館の環境に関する取り組みなどについて説明する。
7	税務課	自然	所属する自治会（地域づくり担当職員の担当自治会も含む）の地域づくり計画書に掲げる自然環境保全活動や自然災害防災活動への参加率を100%にする。
7	税務課	暮らし	個人情報等が記載されている機密文書を廃棄する場合、シュレッダーでの処理率を90%にする。

令和7年度内子町環境基本計画にかかる部署別独自目標

NO	部署名		目 標
		環境教育	町内小中学校で開催する租税教室のすべてにおいて、「地球温暖化対策のための税(通称:環境税)」が設けられ、環境保護に役立てられている事実を児童・生徒に伝える。(年5回予定)
8	保健福祉課	自然	車を利用する場合、軽自動車・ハイブリッド車の利用量を全体の85%以上にする。
		暮らし	機密文書を破棄する場合、シュレッダー処理率を90%以上にする。
		環境教育	窓付き封筒を使用する場合、環境ロゴ等を記載した封筒の使用率を50%以上にする。
9	内子保健センター	自然	給湯室やトイレ、調理室等の清掃の際にえひめAI-1を利用する。 内子保健センターにて育てやすい野菜を育て、調理実習で活用する。
		暮らし	訪問や出張の際にEV車を積極的に活用する。
		環境教育	成人関連の教室の通知に、うちエコに関する情報を記載し、参加者に周知する。
10	こども支援課	自然	暑さ・寒さ対策として、グリーンカーテンや断熱材を活用する。
		暮らし	年間を通じて片面利用用紙の箱を設置し、裏面利用により印刷用紙の節約に努める。
		環境教育	個別教室利用のこども及び保護者に対して節電節水の啓発を行う。
11	建設デザイン課	自然	生態系に配慮した河川環境の整備を自治体などの民間団体と協働して年1回以上行うとともに、近自然型工法を推進することで、環境に配慮した工事を行う。
		暮らし	内子町産の木材使用を促進するため、1施設の公共建築物の木造化を推進する。
		環境教育	新規の上下水道に係わる手続きの際には、すべてのお客様に対して「えひめA-1」の効果を紹介し、利用の促進及び消費量の増加を図る。また合併浄化槽を新設する場合に対しても同様とする。
12	環境政策室	自然	生物多様性をテーマとした主催活動を年2回以上実施する。
		暮らし	広報やSNSを活用し、ごみ分別など5R推進に関する情報を年3回以上発信する。
		環境教育	環境学習に活用できるオリジナル教材の充実を図る。
13	内子総合窓口センター	自然	サン・ラブ提供のえひめAI-1を年間50本以上住民に配布し、環境保全に努める。
		暮らし	サン・ラブ提供のゴーヤ苗などを住民に配布する。緑のカーテンを設置する。 毎朝水道メーターをチェックし、漏水がないか使用量に注意する。
		環境教育	転入者に対して、ゴミの出し方の冊子を配布して説明し、環境への配慮について案内する。
14	町並・地域振興課	自然	町内の自然を活用した企画を開催し、町内外に内子町の雄大な自然をアピールする。
		暮らし	町内施設(内子座・内子町歴史民俗資料館・木蠟資料館上芳我邸・いかざき風博物館など)とともに、ごみの分別やグリーン購入率の徹底に努める。
		環境教育	各施設で関係資料やポスターの掲示を行う。各イベントを実施する際に、来客にごみの持ち帰り・分別を呼び掛ける。
15	八日市・護国町並保存センター	自然	木蠟資料館上芳我邸で、木蠟の原料となるハゼノキへの理解を深める展示や企画を年1回以上開催する。 ハゼノキの実験圃場を整備・管理し、愛媛県固有種である「王櫨」の保存に努めるとともに、新たな実験圃場について検討する。

令和7年度内子町環境基本計画にかかる部署別独自目標

NO	部署名		目 標
		暮らし	八日市・護国地区町並保存会で年4回以上伝統行事を再現し、行事の成り立ちや地域に根ざした暮らしについて理解を深めるとともに来訪者に伝える。 八日市・護国町並保存センターにおいて、伝統的建造物の環境負荷の低さを伝える展示を行う。
		環境教育	学校や来訪者を対象とした木蠟や町並み保存に関わる体験学習を年2回以上実施し、内子の製蠟業の歴史と環境負荷の低い木蠟や伝統的建造物の良さを伝える。
16	農林振興課	自然	木こり市場プロジェクトを推進して森林保全と地域活性化を目指すため、木こり市場での木材取り扱い量の前年度比増加を目指す。
		暮らし	廃プラスチックおよびビニールをJAと協力して回収し、リサイクルを推進するために、廃プラスチックの取り扱い量の現状維持を目指す。
		環境教育	有害鳥獣対策事業に関して、有効な防除方法等を年一回以上広報・HPで公表する。
17	学校教育課	自然	エネルギーの消費が少ない地球環境にやさしい紙づくり・手漉き和紙を体験し(町内全小学6年生)、卒業証書にすること(全中学生)で各家庭の環境教育に対する理解を深める。
		暮らし	奉仕活動に積極的に参加し、地域環境に配慮する。 環境副読本の活用を図り、子どもから家庭へ、家族ぐるみで環境教育に対する知識を深める。
		環境教育	環境子ども会議の実施により、町内外に情報を発信し、内子町の取り組みを紹介することによって、環境教育による交流を図る。
18	自治・学習課	自然	環境・景観保全や自然を生かした事業など、自然と共存していくための地域づくり事業実施を、自治センターを通じて年1回以上各自治会へ呼びかける。
		暮らし	開催する会議にて、可能な場合はマイ箸マイコップ、リユース食器、または備品使用を推進する。
		環境教育	青少年海外派遣事業等を通じて、ドイツなどの環境保全先進国で得ることができる取り組みを紹介する機会を年1回以上つくり、町内への拡大を図る。
19	議会事務局	自然	タブレット導入により、できるだけ紙の印刷を控える。
		暮らし	会議時の弁当は、すべてリユースできる弁当箱使用の業者への依頼を続ける。
		環境教育	議場見学に訪れる小・中学生に対し、課の環境に関する取り組みを1回以上説明する。
20	小田支所	自然	小田深山の緑化推進(広葉樹植栽の実施) …年1回以上。
		暮らし	緑のカーテンの推進(苗の配布50本以上)と小田支所における実施。 えひめAI-1の配布(年間150本以上)。
		環境教育	全ての転入者へごみの分別の周知・説明・資料配布。
21	内子子育て支援センター	自然	施設周辺の掃除を週3回以上行う。 ゴーヤのグリーンカーテンを設置する。 カメの水替えに前日のポットの残りを再利用する。 花や野菜の水やりにプールの水を再利用する。
		暮らし	利用者にペットボトルキャップの回収を呼びかけ、年間6kgの回収に努める。 親子教室、利用者を対象に廃材を使ったおもちゃ作りを年1回以上行う。 グリーンカーテンのツルを再利用し、クリスマスリース作りを行う。 利用者、来館者親子に呼びかけ、子ども用品のリユースの仲介を行う。

令和7年度内子町環境基本計画にかかる部署別独自目標

NO	部署名		目 標
		環境教育	親子教室で、内子産の野菜や旬の食材を使った調理活動を年1回以上行う。 来館者の保護者を対象に、環境学習会を年1回行う。 野菜や草花を育てて来館者親子に栽培を身近に感じてもらい、収穫・試食する体験を提供する。
22	内子児童館	自然	職員1人1回以上、水生生物の観察会などの自然観察会に参加する。 トイレや流しには週1回、植物への灌水には適宜えひめAI-1を使用する。
		暮らし	年間を通して、施設周辺のクリーン活動を行う。 年間を通じてペットボトルキャップの回収を行い、児童館だよりで年1回以上報告する。
		環境教育	エコに関する情報を、児童館便り等に年1回以上掲載する。 子どもたちと一緒に年3回、野菜や花の栽培を行う。 児童クラブで年1回以上、エコ教育を行う(自然物を使った製作)。
23	五十崎児童館 きらり	自然	自然物、廃材、廃品を利用した製作活動を年間3回以上行う。 野菜の栽培を行い、児童クラブのおやつとして使用する。
		暮らし	年間を通して月1回以上のクリーン活動を行い、近隣の清掃やごみ拾いをする。
		環境教育	アルミ缶・ペットボトルキャップ・廃油・廃品の回収を続ける。また年1回以上、きらり通信でお知らせしたり、掲示したりして、利用者や地域の人にも協力をお願いする。 児童向けの環境に関する学習会や体験学習、見学会等を年間2回以上行う。
24	五十崎こども園	自然	身近な自然や生き物に触れたり、生き物の飼育をしたりする中で、自然の豊かさを守る心を育む。 夏野菜をテラスで栽培し、キュウリの葉で3㎡以上のグリーンカーテンを作る。 水遊びやプール遊びの残り水を毎日水やりに再利用する。 水やりの際に、毎日えひめAIを使用する。
		暮らし	園だよりにて年間6回以上ペットボトルキャップやアルミ缶、廃材の回収を呼びかけ、学期末3回、成果を伝える。 年間3回以上園の周りのごみ拾いをする。リサイクルや環境維持についての学習会を年1回以上行う。 エコ見回り隊として、年間を通して各クラス、他施設の水道や電気をチェックし、節水・節電を心がける。異年齢児にもその大切さを自分たちで伝えていく。
		環境教育	夏野菜を植えたり育てたりする中で、食べ物の大切さや感謝の気持ちを学び、食べ残し0を目指す。 汚水の処理について学ぶ学習会を実施する。また、園周辺の下水道の位置を散歩しながら汚水栓を探し、マップを作成する。 日々の保育の中で、廃材を使って製作したり、エコ集会を年1回以上開き、ごみの分別ゲームをして、エコに興味を持つ。また、学習会で学んだことを発表する場を作り、エコに対する意識を高める。
25	内子保育園	自然	子どもと一緒に作った腐葉土を年3回以上利用し、花や野菜の栽培に活用する。 3期に1回以上、小田川や町並み散策に行き、清掃活動や自然観察を行う。
		暮らし	園全体で園の美化に努める機会を年6回以上設け、集めた葉草を腐葉土作りに活用する。 年間4回以上、地域や保護者にアルミ缶や廃油の回収を呼びかけ、常時回収していく。
		環境教育	エコに関する集会を年4回以上開催し、外部講師を招くなどして、楽しみながらエコ活動を推進する。 野菜や草花の世話や自然探索、清掃活動などを通じた子どもの気付きや成果を、年2回以上報告する機会を設ける。

令和7年度内子町環境基本計画にかかる部署別独自目標

NO	部署名		目 標
26	五城保育園	自然	畑で野菜を栽培し、園児と一緒に収穫・調理したり、給食の食材に活用したりするなど、年3回以上、食育の時間を設ける。(内子町の管理栄養士による) 15㎡のグリーンカーテンを作り、電気代の削減に努める。 夏場のプールの残り水は、畑や花壇、プランターの水やりに毎回使用し、水道代の削減に努める。
		暮らし	家庭や給食室で使用した廃油を回収し、廃油石けんを作って希望者に配布する。(サンラブ) 家庭で不要になった物は、東自治センター文化祭のフリーマーケットに出品することで、資源の循環を目指す。 月1回を「みんなできれいデー」とし、園児と共に園内の掃除・草引き・散歩時のごみ拾いなどを行う。また反省・評価を記入して目標達成に努める。
		環境教育	「エコだより」を年2回配布し、廃油やアルミ缶、ペットボトルの蓋などのリサイクル状況を知らせ、協力をお願いする。 年長児が園内のエコ見回りを週1回(金曜日)に行う。またエコだよりや掲示板を通して年2回以上紹介する。 年長児が東自治センターへエコ見回りに行ったり、散歩の際に、ごみを拾い、分別するなどして、エコに対して興味・関心を持つ機会をつくる。
27	大瀬保育園	自然	散歩や地域の行事に参加し生き物、植物、気候などにふれた活動を通して自然の大切さを知り、遊びや生活に活かす。(あゆの放流、川遊び、散歩など) 雑草や落ち葉、終わった野菜などでたい肥作りをする。作ったたい肥を畑や花壇に利用する。
		暮らし	園の畑で野菜作りを行い、大変さを知ったり、実際に調理して食べることで食物の大切さや作ってくれる方への感謝を感じたりする。 ゴーヤやアサガオなどのグリーンカーテンづくりをする。
		環境教育	年4回エコやSDGSを意識した取り組みや集会を行う。 エコに関する取り組みを年3回以上掲示やおたよりで保護者にも知らせる。 リサイクルについて知り、アルミ缶、ペットボトルのキャップ、廃油、紙ごみを集める。 エコ見回りを行う。
28	くるみ保育園	自然	戸外活動時に自然物を収集し、室内に飾ったり飼育したりするなど遊びに活用し子どもたちの興味や関心につなげる。 子どもたちと一緒に野菜を育て、収穫した野菜は給食や自分たちで調理したりして活用する。 子どもたちと一緒にグリーンカーテンを作り、日よけとして活用する。
28	くるみ保育園	暮らし	廃油、アルミ缶、ペットボトルキャップの回収を随時実施する。 給食で出た野菜や果物の皮は、すべて近所の農家に肥料として提供する。
		環境教育	毎月第1水曜日を「スマイルデー」とし、エコ活動を含めた異年齢児での関わりが多く持てるような活動を行う。 「エコだより」を年2回以上発行するほか、エコ活動の様子を掲示し、保護者や地域に知らせて啓発につなげる。
29	小田幼稚園	自然	身近な自然に触れ、飼育したり遊んだりしながら豊かな自然を守ろうとする。 地元の自然環境を知る。

令和7年度内子町環境基本計画にかかる部署別独自目標

NO	部署名		目 標
		暮らし	年間を通してペットボトルキャップや廃材の回収を呼びかけ、保護者の協力を得ながらエコ活動に取り組む。 日々の生活の中で、燃えるごみと紙ごみの分別をしながらものの大切さに気付く。
		環境教育	野菜を植えたり育てたりする中で、成長を喜びながら食べ物の大切さを知り、食べ残しを減らす。 日々の保育の中で廃材を使い製作をしながらエコに興味を持てるようにする。
30	内子小学校	自然	各学年・各教科において機会を見つけて環境に関する学習を行う。 学校生活や家庭生活においても手洗い・うがい・歯磨き・掃除等で節水に心掛けさせる。
		暮らし	アルミ缶、ペットボトルキャップ集めの週間を月1回設定し、保護者や地域にも働きかけ、年間を通して回収を行う。 金曜日には、燃えるごみと資源ごみの分別回収を行い、資源の有効活用の意識を持たせる。 紙媒体の文書を電子化し、ペーパーレス化を図り、業務改善やコスト削減に積極的に取り組む。
		環境教育	小田深山での集団宿泊活動や環境子ども会議に向けて、内子町の自然や環境について学習し、理解を深める。(4・5年生) 地域コーディネーターや外部講師と連携しながら環境学習を進める。 ふるさと教育を推進し、ふるさと内子を大切に作る心を育てる。
31	大瀬小学校	自然	総合的な学習の時間・生活科を通して、大瀬地区の環境保全について理解を深め、家庭への啓発にも活用する。 ペレットストーブ、床暖房の稼働により、灯油の使用量を減らす。
		暮らし	ごみの分別、廃棄物の適正な処理を心掛ける。
		環境教育	総合的な学習の時間や社会科の学習を通して、リサイクル等に関する理解を深める。
32	立川小学校	自然	校内の落ち葉収集や除草活動を定期的に行う。 学級園やプランターを計画的に運用して、年間を通して児童が植物等に触れることができる環境を整える。
		暮らし	定期的に児童や保護者、地域の方々に呼び掛けて、年間150kg以上のアルミ缶回収を行う。 紙ごみと可燃ごみの分別を徹底して、校内から出るごみの量を削減する。
32	立川小学校	環境教育	森林や中山川等の自然に関する体験学習を年間3回以上実施する。 ホームページや学校だより、学級だよりに学期に1回以上、環境に関する実践やエコに関する取組を掲載する。 外部講師と連携しながら環境学習を進める。
33	石畳小学校	自然	里地里山の再生のため、地域の協力を得て、全校児童が休耕田を利用したそば作り、米作りを行う。収穫後は、そば打ちをしたり餅をついたりして、年6回以上地域の方々と交流を図る。 6月からのプール使用前に、4回程度えひめAI-1を注入する。
		暮らし	全校児童や保護者、地域の方々に定期的に呼びかけて、アルミ缶回収を行う。 年間を通して植物栽培を行い、自然に感謝する心を育てる。

令和7年度内子町環境基本計画にかかる部署別独自目標

NO	部署名		目 標
		環境教育	総合的な学習の時間や環境子ども会議などを活用して環境問題について考え、学んで分かったことをまとめたり他の児童に伝えたりする。 ホームページや毎月の学校便りを活用して、クリーン愛媛運動への参加、アルミ缶回収や環境教育の実践など、本校の取組を紹介する。
34	五十崎小学校	自然	各学級園や児童玄関前のプランターを計画的に運用し、年間を通して植物等に児童が触れることができる環境を整える。
		暮らし	週1回のアルミ缶回収を継続するために、児童を通しての呼び掛けや、家庭・地域への啓発を行う。
		環境教育	生活科や総合的な学習の時間に取り組んだ環境教育の実践を、学校便りやホームページ等で年間3回程度紹介し、家庭や地域に情報を発信する。
35	天神小学校	自然	全ての学年で年間3回は校外活動を行い、自然に親しむ場を設けることで環境の大切さを感じさせる。
		暮らし	保護者や地域にアルミ缶回収を呼び掛け、アルミ缶を売却し、その収益で花の種や野菜などの苗を購入し、子どもたちが世話をする。
		環境教育	環境学習への取り組みの様子を、ホームページなどで年5回は外部に発信する。
36	小田小学校	自然	学校園での野菜や花の栽培、収穫など、上半期・下半期にそれぞれ1回以上行う。 さつまいもの栽培、収穫、料理等、自治会と協力した活動を年2回以上行う。 小田川に親しむ活動を年3回以上行う。
		暮らし	紙ごみと可燃ごみの分別を徹底して、校内から出るごみの排出量を削減する。
		環境教育	ホームページや学校便りに、学期に1回以上、環境に関する実践やエコに関する記事を掲載する。
37	内子中学校	自然	生徒会、学級、部活動等で校内に花を植え、育てる。 年1回、3年生全員が廃油石けんづくりを体験する。
		暮らし	生徒会活動の一環として、最低月1回以上アルミ缶とペットボトルキャップを回収する。 給食時に飲み終わった牛乳パックを洗ってリサイクルする。
37	内子中学校	環境教育	環境子ども会議への参加者を、1年生全員とする。 NIE(新聞活用)の取組で環境に関する記事を3グループ以上取り上げる。
38	大瀬中学校	自然	校内の落ち葉収集や除草活動を継続的に行う。
		暮らし	各月の電気、ガス、冬の灯油の使用量を環境掲示板に掲示するとともに、紙と冬の灯油の使用量については職員会で1週間ごとに口頭で伝達し、適切な使用を心がけるよう啓発する。また、設定温度の適正化を周知する。
		環境教育	毎週木曜日に可燃ごみの回収に努めるとともに、生徒会等の活動を中心に、週1回朝のボランティア活動で草引きや普段できない部分の清掃活動をする。それを生徒集会等で発表して、環境に配慮した生活の意識を高める。
39	五十崎中学校	自然	1カ月にペットボトル(2L)5本分のえひめAI-1を散布する。 卒業証書はすべて地域内で生産された和紙を使用する。
		暮らし	牛乳パックを毎日回収し、トイレトペーパーにリサイクルをする。

令和7年度内子町環境基本計画にかかる部署別独自目標

NO	部署名		目 標
		環境教育	環境副読本を利用した授業を1回以上、各学年で行う。 アルミ缶回収を実施する。
40	小田中学校	自然	えひめAI-1を週1回、トイレと洗面所に使用し、学校便り等を通じて学期に1回保護者に利用促進を呼びかける。 1年生による農業体験学習や総合的な学習の時間を利用した林業体験を行う。 全校生徒でふるさと学習の時間を活用したシイタケの栽培から収穫、調理に関する学習を年5回以上行う。
		暮らし	生徒会環境委員会を中心に地域住民に対して働きかけ、年500kg以上のアルミ缶の回収を目指す。 給食で使用する牛乳パックを全て回収し、リサイクルの促進を目指す。
		環境教育	生徒会環境委員会による取り組み発表会を年1回以上実施する。 生徒会本部投げかけによるボランティア清掃を年間8回以上実施する。 環境子ども会議に1年生全員が参加し、町内の活動について学習する。
41	内子学校 給食センター	自然	給食で使用する町内産食材の割合(重量ベース)を60%以上とする。
		暮らし	廃食油すべてをBDFとして活用する。
		環境教育	毎日の献立に関する食情報・思いを給食時放送文として各学校に送付する。
42	小田学校 給食センター	自然	給食の食材における町内産野菜の使用率70%以上を目指す。
		暮らし	廃食油すべてを再利用する。
		環境教育	環境に関する教育を、施設において年1回以上開催する。
43	図書情報館	自然	館内に飾る花は、町内の自然の花を使用する。 西側花壇では、季節の草花を植栽し心安らぐ景観づくりに努める。
		暮らし	雑誌のリユース率を90%とする。 ペットボトルのキャップ収集に協力する。 牛乳パックを収集し、再利用に努める。
		環境教育	エコロジーに関する資料を収集し、年1回は広報等で知らせる。 学校等でのブックトークを通して年4回以上、子どもたちへの環境教育資料をアピールする。
44	内子自治センター	自然	青少年を対象に自然に関する学習啓発を実施する。
		暮らし	夏場の室温を下げるため、緑のカーテンを事務室の窓全面(6.8㎡)に設置する。またサン・ラブの協力の下、ゴーヤ苗およそ50株を配布し、普及に努める。
		環境教育	自治会連絡会や高齢者大学の講座などにおいて、環境教育に関わる学習会を行う。
45	内子東 自治センター	自然	東自治センターの主催事業において、環境保全に関する体験活動を年1回以上実施する。
		暮らし	緑のカーテン関係の苗の配布を積極的に実施する。
		環境教育	環境に関する記事を自治センターだよりで年1回以上掲載する。 環境問題に関する情報を館内で回覧し、情報共有を図る。
46	大瀬自治センター	自然	大瀬農業祭『柿まつり』の開催に向けて、大瀬特産の柿などの特産品を町内外に広くPRする。また、地元で採れた果樹や農産物を中心とした軽トラ市を10台以上で実施する。

令和7年度内子町環境基本計画にかかる部署別独自目標

NO	部署名		目 標
		暮らし	施設利用者に対して使い捨て容器の使用の自粛を啓発し、自粛率80%以上を目指す。
		環境教育	エコセミナー活動の内容を精査する。活動を実施することにより、大瀬の子ども達の環境に対する意識を高め、郷土愛を育てる。
47	五十崎自治センター	自然	元気わくわく川まつりや、環境学習会を実施し、自然に多く触れる機会を作り、生き物の生態系や環境のことを勉強していく。 センター裏の花壇の活用
		暮らし	肥料場の肥料を必要な自治会へ提供し活用する。 コピーミスした用紙の裏紙活用 廃棄段ボールの再利用
		環境教育	センターだよりにて、環境に関する記事を掲載していく。
48	小田自治センター	自然	スバル敷地内の落ち葉を堆肥化もしくは土に返し、堆肥については希望者に全て無料配布する。 城の台公園の刈草を希望者に無料で配布する。剪定した枝葉については、動物園用エサ等に無料で配布する。
		暮らし	本館・分館間での図書移動の際に使用する梱包材・緩衝剤は、図書購入時に同梱されている物を必ず再利用する。 生活の中で生かせるような環境関係図書を年間10冊以上購入する。
		環境教育	自治センターだよりに環境に関する記事を年2回以上掲載する。
49	社会福祉協議会	自然	電子メールを積極的に利用し、電子データでの送受を推進することで用紙の使用削減に繋げる。
		暮らし	毎月の介護用品(おむつ)配布時に処分する段ボールについて、地元のNPO団体や児童館、町民、役場職員、社協職員等に再利用していただき、古紙搬出量を減らす。
		環境教育	年1回以上、サロンや協議体でごみ分別について話し合う場を設けるなど、積極的に環境する機会につなげる。
50	みどり苑	自然	施設所有の畑を利用し、年間を通して栽培した季節の野菜(スイカ、さつまいも等)を収穫し、施設用の食材として利用する。
		暮らし	施設から排出される食用廃油の100%再利用化(石鹸)を図る。
		環境教育	みどり苑だより(年4回発行予定)を利用し、入所者・利用者・各家庭に対して、みどり苑の環境への取り組みを周知する。
51	神南荘	自然	厨房から出る残飯はすべて地元農家で飼料として使用してもらう。
		暮らし	普通浴に利用している古田鉱泉については、源泉から施設までの配管や貯水タンクの維持管理を行うことで水道使用量を抑える。 節電に努め、二酸化炭素排出量を抑える。
		環境教育	毎朝の朝礼で最低月1回、毎月の職員会で4回以上、エコオフィスの推進を呼びかける。